

西北地域県民局地域農林水産部 つがる家畜保健衛生所
津軽地区家畜衛生推進協議会
つがる市木造若竹2-1 TEL 0173-4-2276 FAX 0173-42-6087



コロナウイルスによる集団下痢が発生しました!

平成30年12月27日、管内の酪農家1戸において、コロナウイルスによる集団下痢が発生しました。本病は子牛及び成牛の下痢と、搾乳牛においては乳量の低下を示す疾病です。



特に、冬は流行性下痢が発生しやすい季節です。ウイルス侵入防止のため、**飼養衛生管理基準を順守**し、下記の対策を徹底してください。

また、**子牛**の下痢症を予防するためには、**ワクチン接種**が効果的です。**分娩前の母牛**にワクチン(下痢5種混合ワクチン)を接種することで、**初乳**を介し子牛に免疫を与えることができます。子牛を病気から守るため、ワクチンを接種しましょう。

主な侵入防止対策

- ◆ **消石灰の散布** 農場出入口及び農場内に、消石灰を散布
- ◆ **入場車両の消毒** 車両全体を念入りに洗浄及び消毒
- ◆ **農場専用の衣類と長靴を使用** 衛生管理区域に立ち入る際に着用
- ◆ **長靴の洗浄・消毒** 踏み込み消毒槽を設置
- ◆ **使用器具等の洗浄・消毒** 糞便のついた器具は、こまめに洗浄・消毒
- ◆ **牛舎の洗浄・消毒** 糞便やホコリを除去後、洗浄・消毒
- ◆ **導入牛の隔離** 2～4週間は隔離するようにし健康状態を観察



飼養牛に異常が見られた場合は、
すぐに家畜保健衛生所へご連絡下さい!



連絡先：つがる家畜保健衛生所
(土日休日緊急用携帯)

0173-42-2276
090-8788-7459

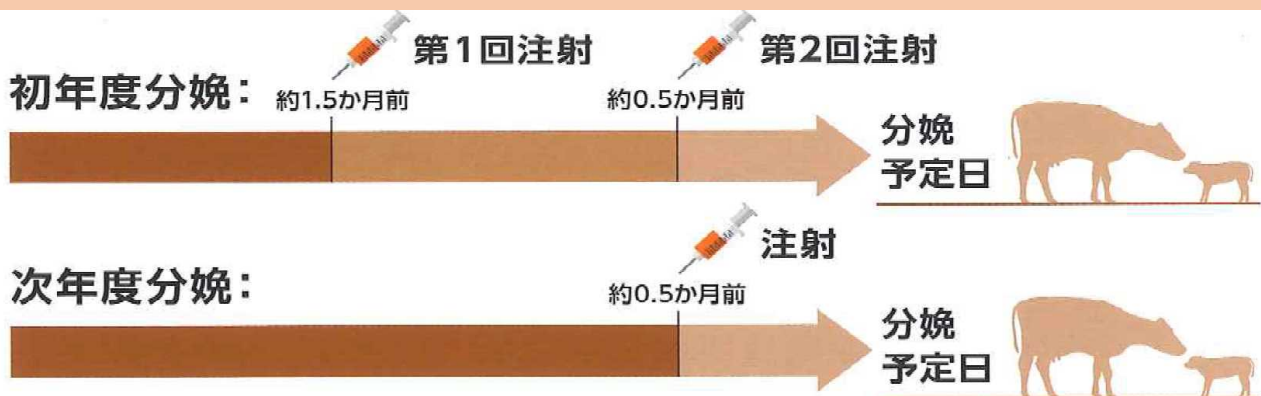
牛下痢 5 種混合ワクチン

新生子牛の下痢予防を目的として、母牛への注射で初乳中に多量の抗体を産生させ、乳汁免疫により子牛の下痢を予防し、万が一発症しても軽症で済むことが期待できます。

対象ウイルスと細菌

- 牛ロタウイルス病
全国的に発生が見られ、年齢を問わず発症します。特に 1~2 週齢の新生子牛に多発し、新生子牛の下痢の 30~50%にロタウイルスが関与しています。
- 牛コロナウイルス病
1~3 週齢の新生子牛に多発します。軽い発熱と白血球減少を伴う激しい下痢を起こします。
- 牛の大腸菌症
生後 3 日齢までの発生が多く、混合感染の場合は約 14 日齢まで発生が見られます。

ワクチン注射基本プログラム



分娩後6時間以内に確実に初乳を飲ませてください。初乳中に含まれる抗体により、子牛の下痢である牛ロタウイルス病、牛コロナウイルス病、牛の大腸菌症を予防します。



効能又は効果	母牛を免疫し、その初乳による産子の牛ロタウイルス病、牛コロナウイルス病及び牛の大腸菌症の予防。
用法及び用量	妊娠牛の筋肉内に1mLずつ1か月間隔で2回注射する。第1回は分娩予定日前約1.5か月に、第2回は分娩予定日前約0.5か月に注射を行う。ただし、前年に本剤の注射を受けた牛は分娩予定日前約0.5か月に1回注射を行う。